

2018年3月期 第3四半期の業績の概要

2018年3月23日

会社名 **AIG損害保険株式会社**
(富士火災海上保険株式会社分)

上場取引所 非上場

URL <https://www.aig.co.jp/sonpo>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) ケネス・ライリー

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 合志 牧子 TEL 03-5400-6493

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(注) 金額は記載単位未満を切り捨て、諸比率は四捨五入し表示しております。以下の諸表も同様です。

1. 2018年3月期第3四半期の業績(2017年4月1日～2017年12月31日)

(1) 経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年3月期第3四半期	218,616	△ 2.7	10,472	△ 12.7	23,607	165.6
2017年3月期第3四半期	224,616	△ 3.2	11,994	-	8,888	-

	1株当たり四半期純利益	
	円	銭
2018年3月期第3四半期	195	10
2017年3月期第3四半期	73	45

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年3月期第3四半期	809,827	87,334	10.8
2017年3月期	824,308	65,125	7.9

(参考) 自己資本 2018年3月期第3四半期 87,334百万円 2017年3月期 65,125百万円

○添付資料の目次

1. 四半期財務諸表	P. 2
(1) 四半期貸借対照表	P. 2
(2) 四半期損益計算書	P. 3
2. 補足情報	P. 4
(1) 種目別保険料・保険金	P. 4
(2) 有価証券関係	P. 5
(3) デリバティブ取引関係	P. 6
(4) ソルベンシー・マージン比率	P. 7

※ 2018年3月期 第3四半期業績の概要（補足資料）

1. 四半期財務諸表 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2017年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2017年12月31日)
資産の部		
現金及び預貯金	35,556	66,465
有価証券	620,704	591,867
貸付金	5,669	4,990
有形固定資産	33,437	28,053
無形固定資産	8,377	8,434
その他資産	58,600	55,460
前払年金費用	4,914	4,216
繰延税金資産	57,604	50,861
貸倒引当金	△ 526	△ 510
投資損失引当金	△ 29	△ 12
資産の部合計	824,308	809,827
負債の部		
保険契約準備金	700,706	670,163
支払備金	91,001	90,947
責任準備金	609,704	579,216
その他負債	56,164	47,165
未払法人税等	2,346	560
リース債務	1,444	1,143
資産除去債務	1,085	1,183
その他の負債	51,287	44,278
役員退職慰労引当金	90	111
賞与引当金	773	3,683
特別法上の準備金	368	632
価格変動準備金	368	632
再評価に係る繰延税金負債	1,080	735
負債の部合計	759,182	722,492
純資産の部		
株主資本		
資本金	55,981	55,981
資本剰余金	45,679	45,679
利益剰余金	△ 54,395	△ 32,241
株主資本合計	47,265	69,419
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	27,404	26,005
土地再評価差額金	△ 9,544	△ 8,090
評価・換算差額等合計	17,860	17,915
純資産の部合計	65,125	87,334
負債及び純資産の部合計	824,308	809,827

(2) 四半期損益計算書 【第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
経常収益	224,616	218,616
保険引受収益	218,615	203,896
(うち正味収入保険料)	177,802	168,759
(うち収入積立保険料)	955	170
(うち積立保険料等運用益)	4,949	4,380
(うち支払備金戻入額)	-	54
(うち責任準備金戻入額)	34,837	30,487
資産運用収益	4,394	13,425
(うち利息及び配当金収入)	8,394	9,437
(うち有価証券売却益)	702	8,046
(うち積立保険料等運用益振替)	△ 4,949	△ 4,380
その他経常収益	1,606	1,295
経常費用	212,621	208,144
保険引受費用	165,492	153,419
(うち正味支払保険金)	102,053	96,119
(うち損害調査費)	11,464	10,468
(うち諸手数料及び集金費)	30,078	29,200
(うち満期返戻金)	20,551	17,408
(うち支払備金繰入額)	1,170	-
資産運用費用	2,602	4,076
(うち有価証券売却損)	1,502	1,289
(うち有価証券評価損)	34	-
(うち金融派生商品費用)	977	2,738
営業費及び一般管理費	43,803	50,151
その他経常費用	722	495
(うち支払利息)	48	50
経常利益	11,994	10,472
特別利益	857	24,432
固定資産処分益	9	4,310
特別法上の準備金戻入額	848	-
価格変動準備金戻入額	848	-
子会社株式売却益	-	20,121
特別損失	1,016	2,746
固定資産処分損	24	108
減損損失	731	2,108
特別法上の準備金繰入額	-	264
価格変動準備金繰入額	-	264
子会社株式売却関連費用	259	265
税引前四半期純利益	11,835	32,158
法人税及び住民税	2,341	1,511
法人税等調整額	605	7,039
法人税等合計	2,947	8,550
四半期純利益	8,888	23,607

2. 補足情報

(1) 種目別保険料・保険金

元受正味保険料(除く収入積立保険料)

区分	前第3四半期累計期間 (自2016年4月1日 至2016年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)
火災	46,685	21.9	△26.1	44,609	22.1	△4.4
海上	1,165	0.6	△19.8	1,237	0.6	6.1
傷害	15,032	7.1	△5.3	14,270	7.0	△5.1
自動車	107,079	50.2	△1.3	102,817	50.9	△4.0
自動車損害賠償責任	23,464	11.0	△5.6	19,328	9.6	△17.6
その他	19,708	9.2	1.4	19,725	9.8	0.1
合計	213,134	100.0	△8.6	201,989	100.0	△5.2

正味収入保険料

区分	前第3四半期累計期間 (自2016年4月1日 至2016年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (△)率(%)
火災	13,364	7.5	△71.5	10,617	6.3	△20.6
海上	1,019	0.6	△15.7	1,079	0.6	6.0
傷害	14,982	8.4	△5.3	14,232	8.4	△5.0
自動車	106,874	60.1	△1.3	102,684	60.9	△3.9
自動車損害賠償責任	22,303	12.6	△8.0	20,866	12.4	△6.4
その他	19,259	10.8	1.7	19,279	11.4	0.1
合計	177,802	100.0	△17.5	168,759	100.0	△5.1

正味支払保険金

区分	前第3四半期累計期間 (自2016年4月1日 至2016年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)		
	金額 (百万円)	対前年増減 (△)率(%)	正味損害率 (%)	金額 (百万円)	対前年増減 (△)率(%)	正味損害率 (%)
火災	16,678	3.1	131.2	11,484	△31.1	116.5
海上	388	△46.8	40.9	233	△39.8	23.4
傷害	6,658	△3.1	48.7	6,213	△6.7	48.0
自動車	53,207	△2.4	56.8	53,758	1.0	59.0
自動車損害賠償責任	18,289	△3.8	90.2	17,035	△6.9	88.9
その他	6,830	△3.7	38.4	7,393	8.2	41.4
合計	102,053	△2.2	63.8	96,119	△5.8	63.2

(注) 正味損害率は正味支払保険金に損害調査費を加えて算出しております。

(2) 有価証券関係

1. 満期保有目的の債券

前事業年度 (2017年3月31日)

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
公社債	77,127	84,178	7,050

当第3四半期会計期間 (2017年12月31日)

(単位:百万円)

	四半期貸借対照表計上額	時 価	差 額
公社債	76,718	83,553	6,834

2. その他有価証券

前事業年度 (2017年3月31日)

(単位:百万円)

	取得原価	貸借対照表計上額	差 額
公社債	146,863	154,067	7,203
株式	18,566	35,914	17,347
外国証券	286,236	288,633	2,397
その他	20,044	30,007	9,963
合計	471,711	508,623	36,912

- (注) 1 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。
 2 「その他」は投資信託受益証券(取得原価20,044百万円、貸借対照表計上額30,007百万円、差額9,963百万円)であります。
 3 前事業年度において、その他有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。)について32百万円(すべて株式)減損処理を行っております。
 なお、有価証券の減損にあたっては、事業年度末の時価が取得原価に比べて30%以上下落した銘柄すべてを対象としております。

当第3四半期会計期間 (2017年12月31日)

(単位:百万円)

	取得原価	四半期貸借対照表計上額	差 額
公社債	118,718	125,059	6,341
株式	23,248	44,857	21,609
外国証券	323,341	325,979	2,637
その他	12,929	17,211	4,282
合計	478,236	513,107	34,870

- (注) 1 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。
 2 「その他」は投資信託受益証券(取得原価12,929百万円、四半期貸借対照表計上額17,211百万円、差額4,282百万円)であります。
 3 その他有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。)について減損処理は発生しておりません。
 なお、有価証券の減損にあたっては、四半期会計期間末の時価が取得原価に比べて30%以上下落した銘柄すべてを対象としております。

(3) デリバティブ取引関係

1. 通貨関連

前事業年度 (2017年3月31日)

(単位：百万円)

区分	取引の種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	9,226	1,029	△ 213	△ 213
	英ポンド	1,623	1,623	△ 37	△ 37
	ユーロ	28,144	—	△ 840	△ 840
	買建				
	米ドル	18,958	969	23	23
	英ポンド	2,160	1,884	△ 221	△ 221
	ユーロ	30,244	—	△ 46	△ 46
合計		—	—	△ 1,336	△ 1,336

(注) 1 時価の算定には、先物為替相場を使用しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

当第3四半期会計期間 (2017年12月31日)

(単位：百万円)

区分	取引の種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	6,407	1,029	22	22
	英ポンド	1,623	—	△ 189	△ 189
	ユーロ	1,528	—	△ 179	△ 179
	買建				
	米ドル	4,022	969	102	102
	英ポンド	1,884	—	△ 71	△ 71
	ユーロ	1,695	—	12	12
合計		—	—	△ 302	△ 302

(注) 1 時価の算定には、先物為替相場を使用しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

(4) ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (2017年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2017年12月31日)
(A) ソルベンシー・マージン総額	181,655	209,256
資本金又は基金等	47,265	69,419
価格変動準備金	368	632
危険準備金	117	108
異常危険準備金	116,884	115,552
一般貸倒引当金	166	154
その他有価証券評価差額金・繰延ヘッジ損益 (税効果控除前)	33,221	31,385
土地の含み損益	△ 9,972	△ 8,425
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
払戻積立金超過額及び負債性資本調達手段等のうち、 マージンに算入されない額	—	—
控除項目	6,903	—
その他	506	430
(B) リスクの合計額 $\sqrt{(R_1 + R_2)^2 + (R_3 + R_4)^2} + R_5 + R_6$	40,832	40,509
一般保険リスク (R ₁)	21,776	21,373
第三分野保険の保険リスク (R ₂)	6	5
予定利率リスク (R ₃)	3,531	3,371
資産運用リスク (R ₄)	21,528	18,739
経営管理リスク (R ₅)	1,586	1,550
巨大災害リスク (R ₆)	6,042	8,202
ソルベンシー・マージン比率 [(A) / {(B) × 1/2}] × 100	889.7 %	1,033.1 %

注. 「ソルベンシー・マージン比率」とは、保険業法施行規則第86条および第87条ならびに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出された比率であります。

【ソルベンシー・マージン比率】

・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立型保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。

・この「通常の予測を超える危険」に対して「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたものが、「ソルベンシー・マージン比率」であります。

「通常の予測を超える危険」

保険引受上の危険 (*1)、予定利率上の危険 (*2)、資産運用上の危険 (*3)、経営管理上の危険 (*4)、巨大災害に係る危険 (*5) の総額

- *1 保険引受上の危険 (一般保険リスク、第三分野保険の保険リスク) :
保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険 (巨大災害に係る危険を除く)
- *2 予定利率上の危険 (予定利率リスク) :
積立型保険について、実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険
- *3 資産運用上の危険 (資産運用リスク) :
保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る危険等
- *4 経営管理上の危険 (経営管理リスク) :
業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記 *1 ~ *3 および *5 以外のもの
- *5 巨大災害に係る危険 (巨大災害リスク) :
通常の予測を超える巨大災害 (関東大震災や伊勢湾台風相当) により発生し得る危険

「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」

損害保険会社の純資産 (社外流出予定額等を除く)、諸準備金 (価格変動準備金・異常危険準備金等)、土地の含み損益等の総額

・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する客観的な指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。

《富士火災》 2018年3月期 第3四半期業績の概要（補足資料）

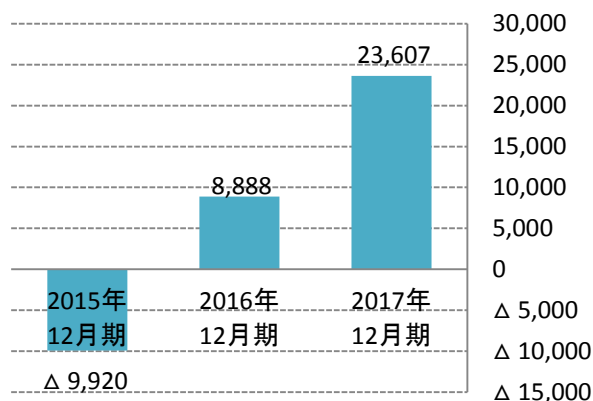
富士火災海上保険株式会社の2018年3月期第3四半期の業績につきまして、以下の通り概要をお知らせいたします。

■ 損益の状況

四半期純損益

236.0億円

(単位:百万円)

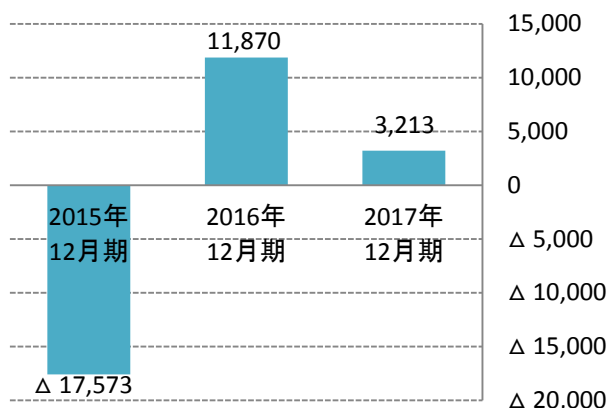


当第3四半期累計期間の四半期純損益は236億円となりました。保険引受損益は86億円の減益となりましたが、資産運用損益が72億円、特別損益が218億円それぞれ増益し、全体で対前年同期比147億円の増益となりました。特別損益の主な内訳は、当社の100%子会社であったAIG富士生命株式の売却益201億円、固定資産処分益43億円などです。

保険引受損益

32.1億円

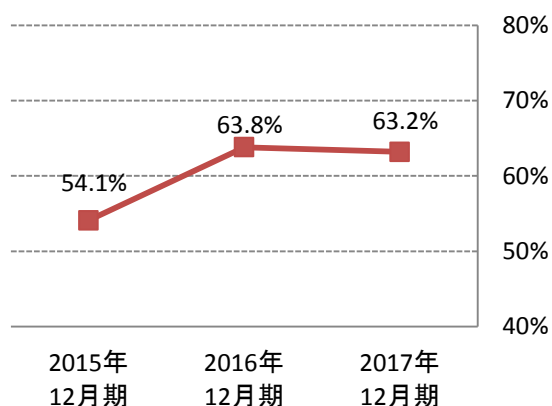
(単位:百万円)



当第3四半期累計期間の保険引受利益は32億円となりました。正味支払保険金は減少しましたが、正味収入保険料が減収、正味事業費が増加したことなどにより、対前年同期比86億円の減益となりました。

正味損害率

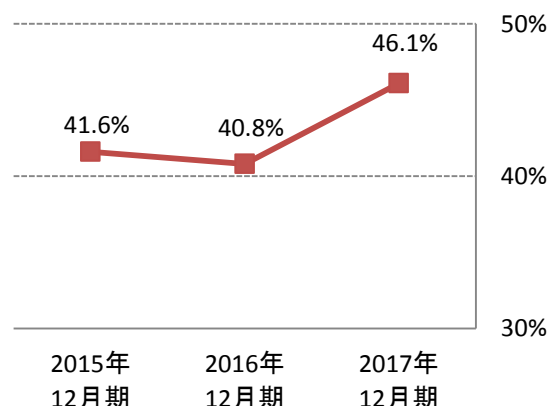
63.2%



当第3四半期累計期間の正味損害率は63.2%となりました。正味支払保険金が59億円減少した結果、前年同期比0.6ポイント低下しました。

正味事業費率

46.1%



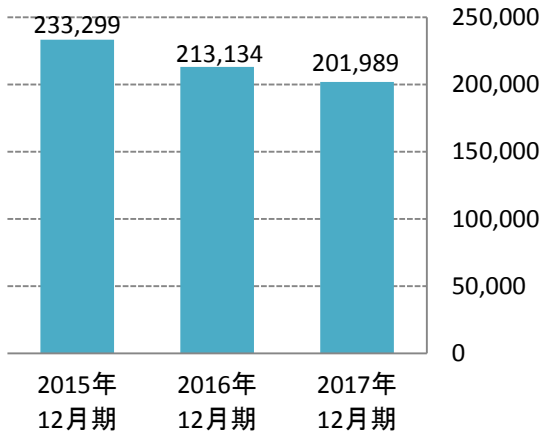
当第3四半期累計期間の正味事業費率は46.1%となりました。正味事業費が52億円増加したこと、正味収入保険料が減収となったことにより、前年同期比5.3ポイントの上昇となりました。

■ 保険料収入の状況

元受正味保険料（除く収入積立保険料）

2,019億円

（単位：百万円）



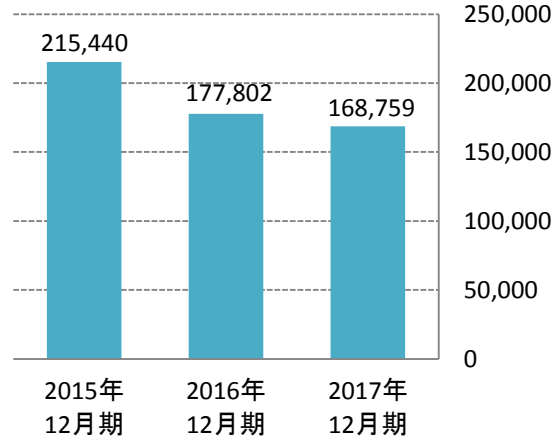
当第3四半期累計期間の元受正味保険料（除く収入積立保険料）は2,019億円と前年同期比△5.2%の減収となりました。

正味収入保険料

（元受正味保険料+受再正味保険料-支払再保険料）

1,687億円

（単位：百万円）



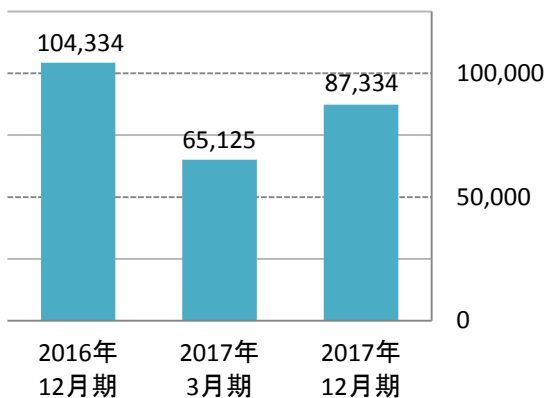
当第3四半期累計期間の正味収入保険料は1,687億円と前年同期比△5.1%の減収となりました。

■ 純資産と支払余力（ソルベンシー・マージン）の状況

純資産

873億円

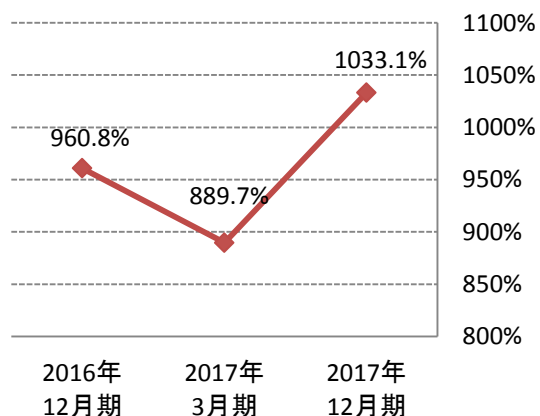
（単位：百万円）



当第3四半期会計期間の純資産は、四半期純利益の計上などにより、前年度末に比べ222億円増加しました。

単体ソルベンシー・マージン比率

1,033.1%



当第3四半期会計期間の単体ソルベンシー・マージン比率は、四半期純利益の計上等によりマージン総額が増加した結果、前年度末比143.4ポイント上昇し、1,033.1%となりました。